

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者:70代 男性 要介護3

利用期間:令和2年6月～現在

既往歴:虫垂炎、深部静脈血栓症、高血圧症、脊髄硬膜動静脈瘻、脊柱管狭窄症、前立腺肥大、レビー小体型認知症疑い

経過:令和2年2月に急性虫垂炎発症、術後リハビリ等を行い、6月に退院されご自宅に戻られる。その際、自尿困難難ためBaカテーテル挿入され、また両膝疼痛あり、便座への移乗・清拭動作に重介助を要する為、退院後は奥様の介助量を考慮し、終日オムツ対応となる。入浴と他者との交流、奥様の負担軽減を目的に令和2年6月より、けやきのデイサービスの利用を開始する。

内 容

退院後デイサービスとけやきの訪問看護が開始。デイを利用され慣れてきたころ、お通じの出が良くなり、すっきりしないというお話を利用者さんより伺う。病院では、トイレを二人介助で行っており、自宅に戻られ、ご家族の介助量を考慮し、排便はベッド上で行う生活になったばかりでもあり、ベッドで横になりながらの排便は大変だろうと推察された。

両下肢の伸展時、両膝の疼痛があり、立位は難しいため車椅子での生活で、移乗に関する評価は、トランスボードを利用した移乗は見守りで行うことができた。トイレで排便を行うためには、トランスボード無しでトイレに移乗できれば、トイレで行うことは可能であろうと思われた為、デイでのリハビリでトランスボード無しでの移乗訓練を実施。

その後トイレで実際に車椅子から便座に移乗し、排便をしていただいたところ「すっきりできた」と満足そうな表情をされ。しかし、けやきで行っても、ご自宅で行うためには、2点問題がありました。

1点目として、ご自宅では、トイレの広さの問題があり、ベッドサイドにポータブルトイレの設置ができるかの環境面の問題と、2点目に奥様の介助量を増やさないとすることが条件になるので、奥様への介助指導も含めて負担にならないかどうかの判断が必要であった。

けやきの訪問看護がサービスとして介入していた為、リハビリ担当職員にその旨を相談。ご自宅でも日中は、ポータブルトイレを使用して排便をするという方向で介入を実施。

現在、日中トイレで排便を行うということはデイ、ご自宅でも定着し、トイレ動作時の下衣の上げ下げの改善に取り組まれている。

今回、けやきの訪問看護の協力もあり、利用者さんの日常を一つ取り戻すことができました。今回、訪問看護との連携を行いながら、ご自宅でのトイレとデイサービスでのトイレをご自身で行えるようになったことはキラキラ介護賞に値するとして、推薦をさせていただきます。